

質 問 者 隅 田 翔

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>1 子育て支援パッケージについて</p>	<p>本町では、これまで数々の子育て支援策を打ち出し、出生率向上など子育て環境の充実を実現しています。これまでの取組のさらなる充実を図り町民をはじめ「子育てするなら女川」と思ってもらえるような、切れ目のない支援を一体的に実施する子育て支援パッケージが重要だと考えます。</p> <p>以下の子育て支援策の実施について町長の見解を伺います。</p> <p>(1) 保育所関連における無償化についてです。</p> <p>第2子以降の保育料無償化。また、保護者と保育士の集金の負担軽減にもつながる遠足代、写真代、絵本代といった一律に必要となる費用の無償化について見解を伺います。</p> <p>(2) 病児病後児保育料、放課後児童クラブ利用料の無償化は利用料により躊躇せず安心してサービスを利用してもらえる環境づくりを実現します。実施検討について見解を伺います。</p> <p>(3) これまでも議論されてきた小中学校給食費の完全無償化については、子育て支援の一体的な施策の一環として実施の見解を伺います。</p> <p>(質問の相手：町長・教育長・担当課長)</p>

質 問 者 隅 田 翔

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>2 放課後児童クラブの拡充について</p>	<p>(1) 共働き家庭の増加により利用者は年々増加傾向です。夏休みだけ利用したいなどのニーズにも対応するための「サマー学童」や通常利用の受入人数の増加など安心して利用できる体制が必要だと考えます。今後の受入体制の強化について見解を伺います。</p> <p>(2) 保護者からの要望を受けて、夏休みなどの長期休みに昼食を提供する自治体が増えています。また、子ども家庭庁では全国の自治体に「放課後児童クラブにおける食事提供について」検討を促す通知を出しています。給食提供や事業者を通じた配食サービスなどによる食事提供の検討を進めては。</p> <p>(3) 現在、本町の保育所では18時30分までの延長利用が可能ですが、児童クラブでは18時までの利用です。このギャップは小1の壁と称され、放課後児童クラブも時間延長を望む声があります。ニーズに沿った利用時間を設定し、利便性向上が必要と考えますが見解を伺います。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 隅田 翔

質問事項	質問の要旨
<p>3 シルバー人材センターの設置について</p>	<p>シルバー人材センターは、高齢者が働くことを通じて生きがいを得るとともに、地域社会の活性化に貢献する組織です。センターは原則として市町村単位に置かれ、宮城県では本町を除いた全自治体で設置されています。高齢者の健康で生きがいのある生活に向けて、本町でも開設の検討を進めては。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 宮坂千尋

質問事項	質問の要旨
<p>1 小中学校の熱中症対策について</p>	<p>全国的に猛暑が続き「いのちに関わる危険な暑さ」に対して十分な対策を講じておく必要があると考えます。教育現場において、児童・生徒の健康を守るため、熱中症への対応策について伺います。</p> <p>(1) 暑い日には適切な判断をすることが重要ですが、目安として熱中症指標計が取り入れられています。校内にはどの程度配備されているか、また、子どもたちの体育や部活動といった活動を制限させないための対策について伺います。</p> <p>(2) 児童・生徒は水筒を持参していますが、部活動の時間帯には空の状態になることもあります。運動する際にはスポーツドリンクによる水分ミネラル補給が重要となるため、自動販売機の設置を提案しますが、見解を伺います。</p> <p>(3) 登下校時の携行品削減について、現在は非定期教材のみ置き勉強対応をされていますが、今一度、熱中症対策の一つとして荷物の軽量化に努めては。</p> <p>(質問の相手：教育長・担当課長)</p>

質問者 宮坂千尋

質問事項	質問の要旨
2 自治体終活支援について	<p>一人暮らしの高齢者が増えるにつれ、死後の手続きや葬儀を行う近親者がいないといった問題が増加しています。住民が自分の希望どおりに最期を迎えるため、そして自治体の負担軽減のため積極的に終活支援を行うことが求められます。</p> <p>終活支援は住民と自治体のために重要な業務と捉え本町での取組みについて伺います。</p> <p>(1) 女川町高齢者福祉計画において「終活の啓発」という事業の中で、自分の想いを書き留める「エンディングノート」の作成支援とありますが、活用状況と利用促進のための取組について伺います。</p> <p>(2) 終活支援事例として、エンディングプラン・サポート事業を行う自治体があります。一人暮らしの方を対象に協力葬儀社に25万円を予納し生前契約を交わし、亡くなった後、基本的な葬儀を行ってもらえる事業です。「住民の尊厳を守る・自治体の葬祭費関連の支出を減らす」このことから終活サポートが行われていますが、高齢化率の高い本町でも積極的に取り組むべき事業と考えますが、見解を伺います。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質 問 者 阿 部 薫

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 土砂災害防止対策は	<p>近年は短時間に激しい雨が降るケースが全国的に増えていますが、去る6月、土砂災害防止月に合わせて女川町内における点検パトロールが実施されております。</p> <p>そこで伺います。</p> <p>(1) 4か所の点検場所と現況は。</p> <p>(2) 点検場所の過去における被害状況は。</p> <p>(3) 今後の抜本的対策計画案は。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>
2 出島、寺間地区の環境は万全か	<p>出島架橋の開通に伴い、島内住民を中心に各担当課との諸問題解決に向かっていきます。震災後の後回し課題も露見されておりますが伺います。</p> <p>(1) 来島（来町）者対応として、駐車場、トイレ、漁港周辺の整備改善の進捗は。</p> <p>(2) 出島住宅周辺の環境衛生整備、大量の産業廃棄物撤収計画、および周辺用地の活用は。</p> <p>(3) 旧女川第四小学校・第二中学校、旧教員住宅棟等の公共物、財産の処理処分の今後の対応計画案は。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 阿部 律子

質問事項	質問の要旨
1 実効性のある避難計画、避難訓練を	<p>8月5日に福島県双葉町へ私的に行政視察に行ってきました。双葉町は現在、住民票上の人口は6,000人弱で町には130人程が住んでいます。また、原発から10キロ圏内で、環境的には女川町と似ています。</p> <p>震災から13年経っても、町に戻りたいと思っている人はわずか600人程度であり、9割が戻らない町になっています。</p> <p>震災前に避難計画はあったものの「まさか原発事故は起こるはずがないとの思いがどこかにあり、実際に原発事故を受けて、全町避難の難しさ、大変さを知りました」と教えていただきました。</p> <p>机上のものではなく、実効性のある避難計画、避難訓練のために、次の点について伺います。</p> <p>(1) これまで何度も行ってきた原子力防災訓練の参加者について、避難用に手配されたバスを利用して登米市方面への広域避難を実際に経験されている参加町民の割合は、どのくらいになりますか。</p> <p>(2) 要配慮者のうち、地域医療センター入院患者、施設入所者等の広域避難計画について、具体的にどのような状況になっていますか。</p>

質問者 阿部 律子

質問事項	質問の要旨
<p>2 観光地女川のPRのために、分かりやすい看板の設置を</p>	<p>(3) 福島原発事故と同様の過酷事故を起こした場合、風向きによっては、町民の被ばくは避けられません。風向きを考慮した避難計画も必要ではないですか。</p>
	<p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>
	<p>以前より町民の方から指摘されていた看板の設置については、何度も質問してきましたが、いまだに変化が見られないことから、次の点について伺います。</p>
	<p>(1) 震災遺構、マッシュパークの場所を示す看板表示の提案について検討しているとのことでしたが、その後どのように検討されたのですか。</p>
	<p>(2) 設置の見通しはありますか。</p>
	<p>(3) 観光地女川のPRのため、サウナなど海岸通りの小さな建物の看板表示は十分ですか。</p>
	<p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 高野 晃

質問事項	質問の要旨
<p>1 原子力災害時避難計画、各種訓練に問題はないか</p>	<p>(1) 原子力災害時にバスで避難する際、バス会社との契約で1ミリシーベルトを超えた場合、バスを派遣できないということですが、間違いありませんか。</p> <p>(2) 避難訓練時に登米の退域時検査場所にて車や人の除染の訓練を行った際、ウェットペーパーで、さっと拭いただけでしたが、本当に除染されているのか心配でした。この方法で訓練としては問題ありませんか。</p> <p>(3) 東北電力で、8月8日に大規模な自然災害などによる施設の損壊を想定した訓練中に3名の方が熱中症や脱水症状を起こし訓練を中断するという事象がありました。訓練中断は発災時の対応として想定不足とも取れますが、町としてどのような対応を求めましたか。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 高野 晃

質問事項	質問の要旨
<p>2 変化する漁業環境、今後の漁業政策は</p>	<p>温暖化での海水温上昇や中国、韓国の輸入禁止措置等で本町の海面漁業、養殖漁業にも大きな影響が出ています。基幹産業である海面漁業、養殖漁業を将来的にどのような方向に進めていくのかを伺います。</p> <p>(1) 東北大学グループとのマナマコ増養殖システムの開発について、現時点での到達点と見通しは。</p> <p>(2) 宮城県知事は、6月に真珠の養殖構想を打ち出しましたが、本町にも協力要請等はきていますか。</p> <p>(3) 海面養殖、陸上養殖について、各所に視察を行っていると思いますが、本町のこれからの海面漁業、養殖漁業の展望、政策を伺います。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>

質問者 鈴木公義

質問事項	質問の要旨
1 児童、生徒の学力と体力について	<p>(1) 先ごろ、本年4月に実施した全国学力テストの公表がありました。その中で、中学生の国語の正答率が前年度より11.7ポイント低いという結果でした。中でも、読み取る力に課題がみられたとのこと。本町児童、生徒の読み取る力を含め、結果に対する見解を伺います。</p> <p>(2) 体力づくりの中で、特に水泳の指導について、体育の授業での指導状況や夏休みプール利用の受入れはどのようになっていますか。</p> <p>(質問の相手：教育長・担当課長)</p>
2 海の変化と水産業	<p>震災後の海は、目まぐるしく変化しています。</p> <p>地球温暖化による高水温や海流の変化等により、養殖物のへい死や魚類の不漁が見られ、沿岸域では、磯の変化も見られるようになりました。</p> <p>(1) 変化に対応できる力強い水産業を構築すべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>(2) 日本全体の漁業生産量は1984年のピーク時から7割減になっています。しかし、世界では生産量は倍増し、漁獲量も横ばいで推移しています。このことについて見解を伺います。</p> <p>(質問の相手：町長・担当課長)</p>